

松山空港将来構想 ～概要とその後の取組～

加藤一誠

(慶應義塾大学商学部)

本日の概要

1. 松山空港将来構想検討会の概要
2. 松山空港将来構想の概要
3. むすび

松山空港将来構想検討会の概要

目的

人口減少や、コロナ禍を経た社会経済情勢の大きな変化等を踏まえ、愛媛県の空の玄関口である松山空港が引き続き地域の発展を牽引する存在であるため、**目指すべき将来像やその実現に向けた官民連携のあり方、運営の方向性等をとりまとめる**

設置

2024（令和6）年に松山空港利用促進協議会に設置、**産官学の有識者16名により構成**

委員

| | | | | | |
|--------------|------|------------|----------------|------------|--------|
| 慶応義塾大学 | 教授 | 加藤 一誠（委員長） | 愛媛県観光物産協会 | 専務理事 | 金子 浩一 |
| 桃山学院大学 | 教授 | 西藤 真一 | 愛媛県トラック協会 | 会長理事 | 御手洗 安 |
| 愛媛県市長会 | 会長 | 武智 邦典 | 愛媛県バス協会 | 専務理事 | 松本 真一 |
| 愛媛県町村会 | 会長 | 河野 忠康 | 愛媛県ハイヤー・タクシー協会 | 専務理事 | 谷口 政賀津 |
| 愛媛県商工会議所連合会 | 会頭 | 高橋 祐二 | 松山空港ビル(株) | 代表取締役社長 | 清水 一郎 |
| 愛媛県商工会連合会 | 会長 | 渡部 英志 | 愛媛県 | 観光スポーツ文化部長 | 久保田 晶 |
| 愛媛県中小企業団体中央会 | 会長 | 服部 正 | 愛媛県 | 政策企画局長 | 三好 康道 |
| 愛媛経済同友会 | 代表幹事 | 山口 普 | 松山市 | 都市整備部長 | 石井 朋紀 |

★オブザーバー 松山空港振興アドバイザー 岡田 晃
国土交通省松山空港事務所空港長 藤原 達 国土交通省松山港湾・空港整備事務所所長 篠原 守昌

検討期間

2024（令和6）年7月から全4回検討会を開催

2025（令和7）年3月18日、松山空港将来構想とりまとめ、翌19日、委員長から知事へ報告

松山空港将来構想概要 (将来像と目標)

将来像

地域の賑わいを創出する

えがお

愛顔あふれる空港

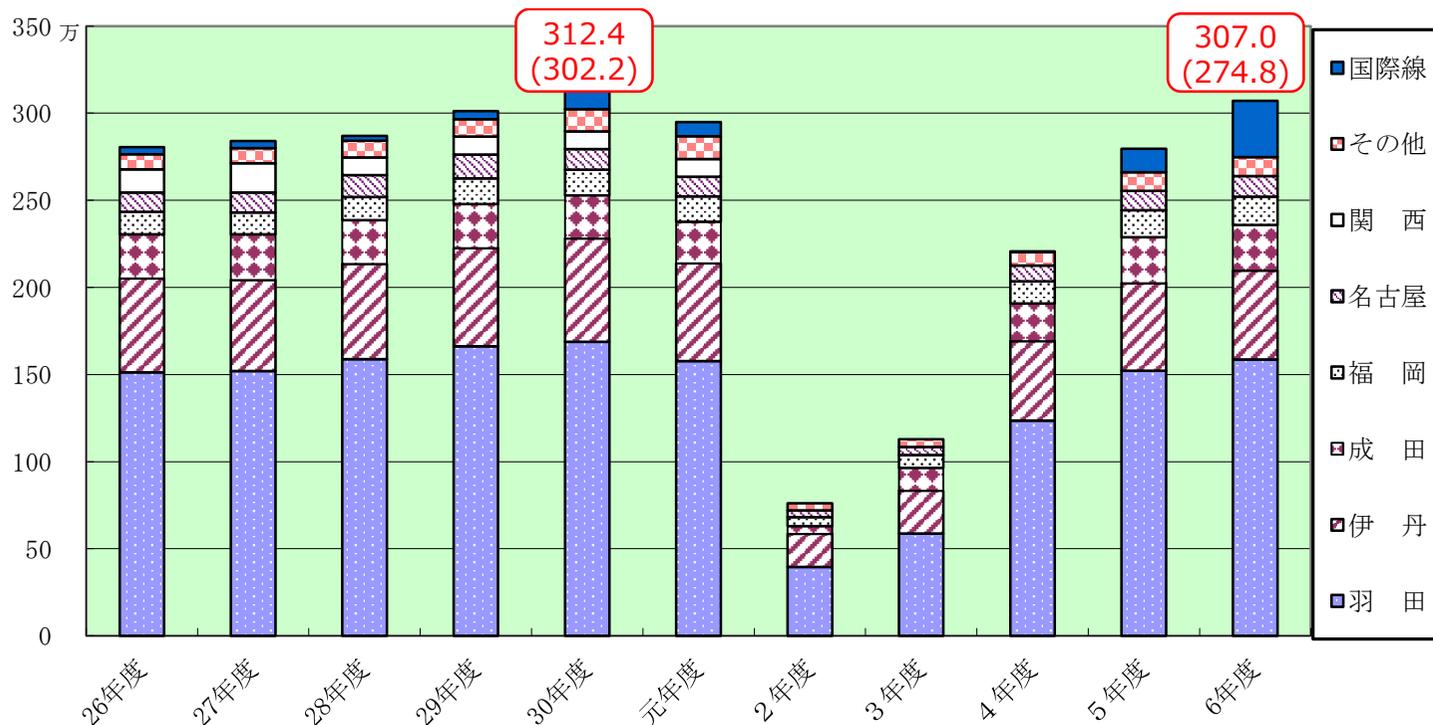
中長期目標

中四国No.1の利用者数及び路線数を目指す

短期目標 (令和12年度)

利用者数 **317万人** (国内線279万人、国際線38万人)

路線数 **13路線** (国内線8路線、国際線5路線)



参考) 令和6年度 (速報値)
利用者数: **307万人**
(国内線275万人, 国際線32万人)
路線数: **10路線**
(国内線7路線, 国際線3路線)

松山空港将来構想概要 (課題)

空港の魅力・利便性向上

- **駐車場の容量が不足 (第1～3駐車場 計1,803台)**
駐車場を含む各施設の運営主体が異なるため、柔軟な対応が困難
- 利便性向上による**空港の利用者満足度の向上**
飲食・物販店舗の多様化 (メニュー・価格帯)、営業時間の延長など

専門的な誘致体制の構築

- 路線誘致を効果的に実施するための**機動的な営業活動、航空会社との長期的な関係構築、専門的な知見の蓄積** (現在は県職員が路線誘致)

円滑な受入体制の構築

- 地上支援業務の**人材確保**

旅客ターミナルビル

松山空港ビル株式会社

駐車場

(一財)空港振興・環境整備支援機構

滑走路等の空港基本施設

国土交通大臣



松山空港将来構想概要(取組みの方向性)

1. 航空ネットワークの維持・拡充

- 全体
 - ▶ 四国・中国地方の他空港や県内外の地方公共団体、観光関連者等との連携強化
 - ▶ **LCCを活用した需要の拡大**、LCC誘致に向けたビル施設機能の強化
 - ▶ 路線の復便・増便に向けた**受入体制の強化**
 - ▶ **官民連携のエアポートセールス体制の構築**
- 国内
 - ▶ 札幌、仙台、関西、九州方面の新規路線の誘致活動
- 国際
 - ▶ リスク分散を考慮した戦略的な路線誘致
 - ▶ 東南アジア等の新規路線開設に向けた誘致活動

2. 愛媛らしさによる空港の魅力向上

- ▶ 豊かな自然・食といった**愛媛らしいコンテンツを意識した空港の魅力づくり**
- ▶ 国際線旅客ビルの**第2期整備を通じて魅力ある愛媛のアイデンティティを表現し、地域に愛される施設づくりを実現**
- ▶ 航空旅客の利便性とバランスを取りながら、空港における賑わいを創出
- ▶ 情報のバリアフリー化や旅客手続きの効率化に向けた技術導入
- ▶ **働き手を含む利用者のための旅客ビルの施設機能の改善**

3. 多様な空港アクセスの実現による利便性向上

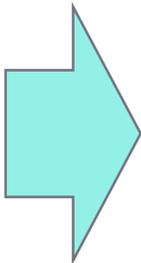
- ▶ 空港活性化に向けた**駐車場の混雑の解消**
- ▶ 空港リムジンバスと**県内外各方面への異なる交通モードとの乗継利便性を向上**させ、円滑な旅行を提供
- ▶ 愛媛県における空飛ぶクルマの社会実装に向けて空港の役割を明確化

4. 地域のレジリエンス強化への貢献

- ▶ 大規模災害時に支援拠点として適切に機能すべく、定期訓練を通じた「松山空港A2-BCP」の実効性の向上
- ▶ 令和32年度のカーボンニュートラル達成に向けて、空港基本施設を中心に進められている脱炭素化の取組みを関係者が一体となって推進

1. コンセッション方式の導入可能性の確認

- 「将来像」を実現していくため、**推進体制の改革が必要**であり、**空港の各施設の運営主体を一体化し民間事業者が効果的に運営することが可能となるコンセッション方式は有効な手段**
- そのため、県は、コンセッション方式の**導入可能性を判断する材料として、**空港管理者である**国土交通省に資産調査を要望し、導入について検討を進めることが望ましい**



○4月30日 愛媛県から国土交通省航空局に
「松山空港の資産調査の実施に関する要望書」を提出

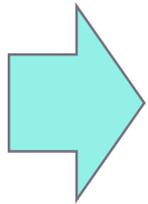
【要望事項】

- ・松山空港の各施設の資産価値等を確認する調査の実施
- ・調査結果の提供
- ・コンセッションの導入可能性についての助言

○6月20日 航空局において、
「松山空港における資産調査等総合アドバイザー業務等の請負」業務の
企画競争実施の公示

2. 将来像の実現に向けた機運醸成と合意形成

- 県は、「地域のために空港をどのように活用すべきか」という視点を持って、**地域と空港の一層の活性化に向けた地域全体の機運醸成や合意形成**を促進
- 県は、**将来像の実現に必要な環境づくりや地域の要望等を整理し、主体的かつ着実に取組みを推進することが望ましい**



○松山空港利用促進協議会が主催し、本勉強会を開催

〔 空港コンセッションの効果や空港を活用した地域経済活性化などの勉強を行い、地元にとって望ましい空港のあり方を考える 〕

ご清聴ありがとうございました。